

老朽化により損傷が著しい橋梁の架替

国道18号に架かる妙高大橋は、太田切川を渡河する橋長300mのPC4径間連続箱桁橋で昭和47年に建設されてから約50年が経過しています。

平成21年に実施した補修工事の際、橋梁の上面から浸入した水が原因でコンクリート桁内に配置されているPCケーブルの腐食・破断が発見されました。

このため、緊急・応急対応として補強ケーブルの設置、橋上面の防水対策、機器による監視強化及びPCケーブルの定期的な調査等を実施してきましたが、恒久的な安全性を確保するため、平成24年度に新橋の架替事業に着手しました。

新しい妙高大橋は、令和3年8月3日に開通し、上信越自動車道とのダブルネットワーク化による道路ネットワークの強化が図られ、平常時・災害時を問わない安定的な交通を確保しています。



事業の経緯

平成21年12月	橋梁補修工事でPCケーブルの異常発見
平成22年2月	保全検討委員会設置
平成23年度	応急対応実施
平成24年度	事業化
平成25年度	工事着手
令和3年8月	新橋開通



計画の概要

路線名	国道18号
起点・終点	妙高市二俣～坂口新田
延長	L=1.1km
道路規格	第3種第2級
標準幅員	一般部 二俣地区 W=13.5m 坂口新田地区 W=16.0m 橋梁部 W=11.5m
橋梁形式	2径間連続非合成鋼トラス橋

